

同 志 社 大 学

2013 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014 年 2 月 26 日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・コミュニケーション学部	教授	山森 良枝
研 究 題 目	重層的パースペクトの組織化と活動動詞「スル」の普遍的意味特性に関する意味論的研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>今年度は本研究の開始年であることから、まず活動動詞「スル」のデータベース構築に向け、データ検索のための方法論の確立から着手した。具体的には、国立国語研究所のデータ検索ソフト中納言を活用することにより、新聞、文学作品、議事録など多様なデータを一次資料として、主節および従属節に生起する活動動詞の「スル」形、「サレル」形、「サセル」形の使用実態を明らかにすべく、調査を開始した。</p> <p>また、これに平行して、前年度に引き続き、ノデ節、カラ節に生起する活動動詞「スル」が主節時に先行する事態を表す従属節先行型事象を表す現象について、その時制解釈に活動動詞「スル」の（当該命題が真理値を表すのではなく、真偽を確定しえないという意味で）命題概念を表す論理構造が本質的に関与しているとの立場に立脚した分析の妥当性を追求した。</p> <p>ノデ節、カラ節以外の環境においても、活動動詞「スル」が命題概念を表す、とすれば、この仮説は、少なくとも未だ説得的な分析がなされていないモダリティが関わる未来時制などの時制解釈や現象にも有効な分析の理論的枠組を提供し得ることになる。現在、この仮説の妥当性について、現在構築中のデータベースとの照合を通じた検証作業を開始しつつある。</p> <p>また、一次資料としてデータを検索中の通常の文とは異なる環境として、心理学でもしばしば考察対象にされるガ-デンパス文に生起する「スル」のふるまいを検証することによっても、上記の仮説の有効性と妥当性を検証することができる。このような観点から、ガ-デンパス文の分析に向け、予備的調査を開始したところである。</p>	